

建築士

おおた

春季号

2026 NO 136



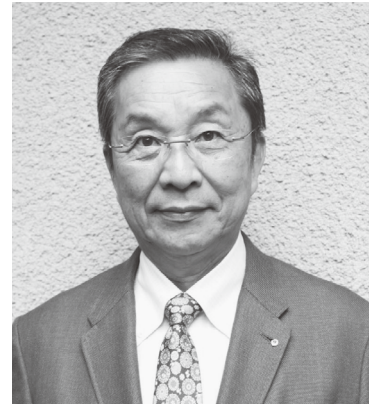
公益社団法人 大分県建築士会

表彰受賞 おめでとうございます。

旭日双光章

別府支部 **幸 勝美 氏**

幸勝美会長が令和7年春の叙勲で旭日双光章を受章されました。幸会長は、(公社)大分県建築士会において、昭和60年に理事に就任し、一時退任後、平成9年5月に再度理事に就任し、平成22年5月からは本部副会長となり、多くの事業に関わってこられました。平成28年に別府で開催された、建築士会全国大会では、実行委員長として会の先頭に立ち、大会の成功を果たされました。令和4年6月に会長に就任され、士会の活動、会員の指導、育成にご尽力されています。



令和2年春には、黄綬褒章を受章されていますが、その際は、コロナ禍で叶わなかった皇居への参内も、今回の受章で果たされました。また、去る令和7年7月13日には、祝賀パーティーが、多くの関係者の参加のもと盛大に開催されました。

大分県功労者表彰

中津支部 **富部 直 氏**

富部氏は永年にわたり建設業界の第一線で活躍され、株式会社富部建設の代表取締役として、地域社会の発展に多大なる貢献をされてきました。「受け継がれる日本の伝統 匠の技」を企業理念に掲げ、建設の分野において、快適な住環境の創出に尽力されています。



また、建設業が担う「地域の守り手」として、災害時における迅速な対応や、防災・減災に向けた取り組みなど、地域住民の安全と安心を守る活動にも携わられています。こうした実直な業務への姿勢と、地域インフラを支え続けた功績が高く評価されました。大分県建築士会においても長きにわたり理事等の要職を歴任されました。中津支部長を務められた際には、会員の結束強化や資質の向上、県本部副会長として後進の育成、建築士の地位向上に尽力されるなど、業界団体の発展にも大きく寄与されています。これまでの地域社会および業界への献身的な活動に対し、深く敬意を表するとともに、心よりお祝い申し上げます。

令和7年度 公益事業の成果

佐伯支部

佐伯支部 志賀 智昭

折り紙建築と言えば各支部とも従来小中学生を対象としたものが一般的ではないでしょうか？

父の介護をきっかけに高齢者への福祉について関心を持ち、地区の福祉関係の役を引き受けていた所、公民館長から生涯学習教室について相談を受けました。

公営事業として高齢者福祉の分野で社会貢献をするのも一つの手段かな?と支部に持ち帰り検討した結果、佐伯支部では公益事業の一環として高齢者を対象とした「折り紙建築教室」を開催する事に至りました。

昨年度に引き続いての事業内容について報告します。

公民館が募集した結果、前年度から引き続き希望のあった受講者とその声掛けで興味を持っていただいた、計5名での教室となり、6月より開催されました。

毎月第3木曜日固定・地区公民館を会場とし、6回の生涯学習教室を令和7年度も無事開催することが出来ました。



作業の様子

開催時間が仕事の時間と重なるため為、毎回の人員の確保や教材準備等には苦勞する事もありましたが、会員の協力と事務局甲斐さんの強力なサポートで受講者の皆さんの

「毎回楽しみにしているんよー」

「こんなに集中して作業することは滅多にねーなー」

「あー、肩がこった!」

「目が疲れて線が見えなくなった!」といった会話で楽しい穏やかな時間を過ごすことが出来ました。



眼鏡を忘れて悩む講師

教室の予定は地区の回覧板で毎月周知され、年度末には社会福祉協議会主催の行事で作品展として展示されます。



昨年度展示の様子

教育委員会・地区公民館(コミュニティー)・自治会・地区社協と連携した公益事業の成果を紹介いたしました。

令和7年度 公益事業の成果

豊後大野支部

ぶんどものづくりクラブ

豊後大野支部 工藤 健治

豊後大野支部で今年度の公益事業として取り組んだのは、小学校クラブ活動への参加です。

小学校クラブ活動は、「児童のキャリアプランニング能力を高め、地域人材を活用するコミュニティスクールの実現に向けた動きをしたい」との狙いがあり、建築士会として「ものづくり」を体験する機会を提供することで参加・協力する事になりました。

豊後大野市には小学校が11校ありますが、そのうちの規模の大きな2校「三重第一小学校」と「三重東小学校」へ『ぶんどものづくりクラブ』として参加しました。

・開催日

【三重東小学校】

10月27日、11月13日、11月20日

【三重第一小学校】

11月10日、11月17日、12月1日

まず参加するに当たって、各小学校、計3回（各70分）の中で、小学生に実現可能で満足度の高い“ものづくり”は何がふさわしいかと考えましたが、協議の結果、木材を組み合わせて～基地をつくろう～となりました。

まず1回目は簡単な作り方の授業を行い、構造の話をしました。

柱・壁・梁・屋根の部材の役割を話し、斜めの材を入れることで強い建物になるという説明をしました。

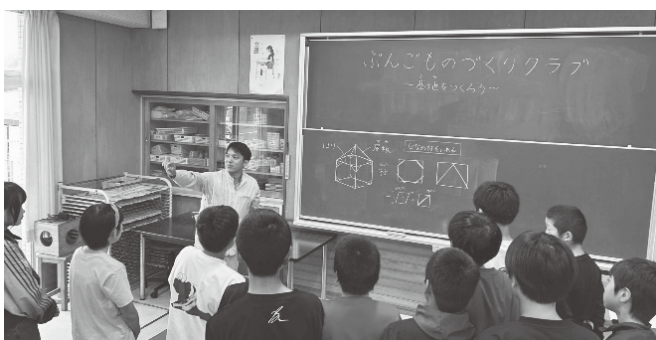
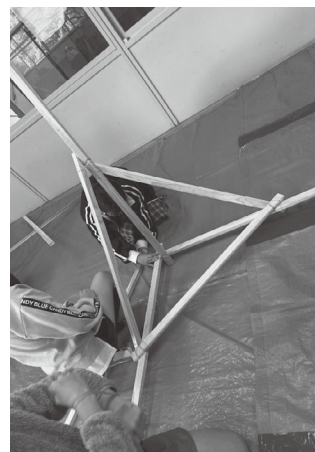
作り始める前に、まず子どもたちに簡単な設計図を作ってもらいました。完成のイメージを広げてもらい、話し合いながら作る形を決めていきました。

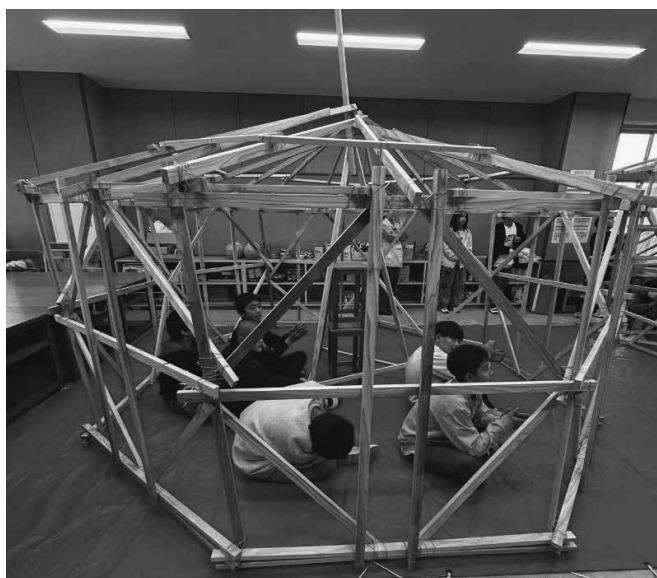
2回目からはA班、B班の2グループに分けて2つの基地の制作を進めて行きました。



制作方法ですが、木材の接続部分を輪ゴムで結びつける方法にしました。これにより特殊な技術は不要で、ある程度強固に結束できます。

子どもたちはどんどん上にと組み進めて行きます。途中で「グラグラする」という話になったところで、建築士から「斜めの材をここに入れたらどうか？」とアドバイスを与えたりしながら子どもたちは見事に組み上げていきます。





実は三重第一小学校の最終回の数日前の11/25に阿蘇でマグニチュード5.7の地震があり豊後大野市は震度3の揺れを観測しました。さらに余震も何度かあり震度1～2程度の揺れを複数回感じました。

そして迎えた最終回の日、基地は何事もなかったかのように建っていました。

1回目の授業で黒板に書いた、「揺れても建物が傾くのを斜めの材が止めてくれるよ」という授業を身に染みて感じた子どもたちでした。

教室を約1か月間貸し切り計3回に渡りクラブ活動を行いました。子どもたちが自分で考えて作り上げたカッコ良くて地震に強い2軒の基地が見事に建ちました。

私たち建築士が児童の前に立った時に考えたこと

- ・子どもたちの楽しいを引き出し褒めること
- ・子どもたちが協力し合うことを促すこと
- ・子どもが自分たちで決めることを促すこと
- ・子ども目線で一緒に楽しむこと

『ぶんごものづくりクラブ』活動では子どもたちと共に達成感を感じ、笑顔を見れたことは私たちに

とても有意義な時間であり、貴重な体験になりました。

また子どもたちにとってもこの小さな成功体験が自己実現の場になり、建築やものづくりについての視野が広がったと思います。

他にも「絵手紙」「毛糸遊び」「けん玉」「テニピン」「ダンス」「茶道」「詩吟」「まちなか探検」「口演」「SPACE」「合唱」「世界を知ろう」「グランドゴルフ」「新舞踊」のクラブ活動が開催され、どこのクラブも地域の方々と交流しながら楽しい時間を過ごしていました。

『ぶんごものづくりクラブ』の今後の展望としては、来年度以降もこの2校と共に、他の小学校にも参加し、継続していけるような活動にしたいと



思っています。

以上、小学校のクラブ活動への参加報告です。

今回参加していただいた建築士の皆様、材料を準備してくれた首藤工務店様、ご協力ありがとうございました。

令和7年度 公益事業の成果

佐賀関支部

「佐賀関地区における井戸の再生と地域交流・防災への活用」

佐賀関支部 嵯峨 彰仁

【1.事業の背景・目的】

佐賀関地区は、近代水道網の整備以前から井戸水に依存した生活が営まれてきた地域であり、家庭用水や漁業における洗浄水など、井戸は暮らしと密接に結びついた存在であった。しかし近年、生活環境の変化や過疎化、家屋解体等に伴い、井戸の利用や数は減少し、現存していても活用されていないケースが多く見受けられる。

一方で、南海トラフ地震等の大規模災害が想定される中、上水道に依存しすぎない「地域内水源」の重要性が改めて認識されている。

本事業は、佐賀関地区に点在する井戸を再発見・再評価し、平時には地域交流の場として、防災時には生活用水確保の手段として活用することを目的に、複数年計画の公益事業としてスタートした。

【2.事業の主旨】

本事業の主旨は以下の三点に集約される。

- ① 災害時における生活用水の地域内確保
- ② 井戸を媒介とした地域コミュニティの維持・再生
- ③ 建築士が地域防災に果たす実践的役割の提示

井戸という「身近で具体的な資源」を見直すことで、防災を特別なものではなく、日常の延長線上に位置付けることを目指している。

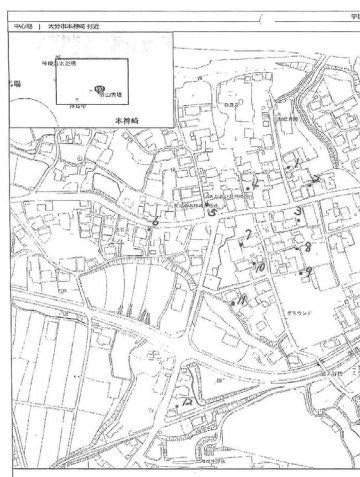


【3.これまでの取り組み】

2024年度より、以下の手順で事業を進めてきた。

- ・佐賀関地区における井戸の存在把握に向けた事前調査
- ・大分市防災危機管理課へのヒアリングによる「災害時市民開放井戸登録制度」の調査
- ・自治委員各位への文書依頼による井戸情報の収集
- ・井戸の所有形態、使用状況、取水方法等の整理
- ・支部会員における調査結果の共有と今後方針の検討

調査結果 井戸の地図



による防災強化の件 井戸リスト (メモ等に活用ください)

番号	使用状況	取水方法	設置場所
0	使用していないその他	ホンプ・手動	屋外・野外
1	使用していないその他	ホンプ・手動	屋内
2	使用中	ホンプ・手動	屋内
3	使用中	ホンプ・手動	屋内
4	使用していないその他	ホンプ・手動	屋内
5	使用中	ホンプ・手動	屋内
6	使用していないその他	ホンプ・手動	屋内
7	使用していないその他	ホンプ・手動	屋内
8	使用中	ホンプ・手動	屋内
9	使用中	ホンプ・手動	屋内
10	使用中	ホンプ・手動	屋内
11	使用中	ホンプ・手動	屋内
12	使用していないその他	ホンプ・手動	屋内
	使用していないその他	ホンプ・手動	屋内

大分市では平成15年より市民開放井戸の登録制度が運用されており、災害時に生活用水として無料開放される井戸が343か所登録されている。一方、佐賀関地区の登録は1件にとどまっており、制度活用の余地が大きいことが明らかとなった。

【4.これまでの成果】

本事業を通じ、以下の成果が得られた。

- ・佐賀関地区全体の約60%のエリアの一次調査を集計した結果、合計262か所の井戸が把握できたこと
- ・その内訳は、使用中の井戸89か所、未使用の井戸165か所であったこと
- ・多くの井戸が「使用可能であるが活用されていない」状態にあること
- ・井戸情報の把握には、自治委員や地域住民との協働が不可欠であること
- ・行政制度と地域実態をつなぐ調整役として、建築士会が有効に機能し得ること

これらの調査を通じ、佐賀関地区には想定以上の井戸が現存し、一定数の利用実態があることが明らかとなった。



【5.佐賀関大規模火災との関連】

2025年11月18日、佐賀関地区において大規模火災が発生した。

この火災では、消火用水の確保が重要な課題として浮き彫りとなり、「地域内に複数の水源があれば」という声も少なくなかった。

過去に大火を経験した新潟県糸魚川市では、消雪井戸や防災水利を平時から点検・訓練し、記憶と仕組みを次世代へ継承している。

佐賀関においても、本事業で進めてきた井戸の再生・利活用は、生活用水の確保にとどまらず、初期消火や防災意識の醸成という観点からも、現実的な防災手段であることが、今回の火災を通じて改めて認識された。

【6.今後のビジョン】

今後は以下を中長期的なビジョンとして掲げている。

- ・井戸情報の整理およびマップ化
- ・市民開放井戸登録制度への段階的な登録促進
- ・井戸表示ステッカーや掲示板等による見える化
- ・防災訓練やまち歩きと連動した井戸活用の実践
- ・若い世代へ記憶と仕組みを継承する仕掛けづくり

建築士は建物をつくる専門家であると同時に、地域の暮らしを支える仕組みを考える専門家でもある。本事業は、その役割を地域に対して具体的に示す一つの実践であり、今後も佐賀関支部として継続的に取り組んでいきたい。

また、地域内で防災や水に関する話題が日常的に交わされるようになれば、「井戸端」という言葉が持つ本来の意味も、改めて再認識されるのではないかと考えている。

令和7年度 公益事業の成果

宇佐支部

宇佐支部 光井 智

【O.B.P大分ベンチプロジェクトIN宇佐】

大分支部青年部の企画として始まったベンチプロジェクトを、宇佐でも開催してみたいと考え、今回の企画を立ち上げました。開催場所には、日向街道の宿場町であり、東西本願寺別院の門前町として栄えた四日市を選びました。宇佐といえば八幡総本宮・宇佐神宮が広く知られていますが、空き家問題など全国的な課題を抱える四日市を、少しでも活性化できればという思いが背景にあります。

宿場町の風情にふさわしいよう、今回は「ベンチ」ではなく「腰掛け・縁台」と名付け、それらを軸にコミュニティ・人の流れ・空き家といった地域課題と絡めながら、談笑を交えてまち歩きを行う企画としています。原稿を書いている現時点では事業は未実施ですが、令和8年2月15日には無事に開催されていることでしょう。

なぜ腰掛けや縁台に着目したのか。それは、往時の四日市の姿を思い描くと、街道を西へ東へと歩き、目的地を目指す人々の姿が自然と浮かんでくるからです。腰掛けでひと息つき、縁台で饅頭を食べながら旅の話に花を咲かせていた光景が目に見えます。建築において建物だけに目を向けるのは、とても危ういことだと私は考えています。人々の営みを含め、さまざまな要素が町並みを形づくるからです。腰掛けや縁台もその一つであり、そこから生まれるコミュニティもまた、町並みを構成する大切な要素です。いつもとは異なる視点で町を歩けば、新たな発見やインスピレーションが得られるはずですよ。



現時点では、地元の方々をはじめ、行政や商工会議所の皆さまにも参加いただける予定です。多くの団体を巻き込みながら、まちの活性化やまちづくりのきっかけとなることを願っています。

「御造作」という言葉があります。大工の造作とは異なり、相手を敬い、その人のために手間をかけるという意味です。そのような“おもてなし”にあふれる四日市になることを、心から願っています。



「第67回 建築士会全国大会 おおさか大会について」

佐賀関支部 渡邊裕一

前回の鹿児島大会に続き、今回のおおさか大会も楽しみにしていました。会場前での宣伝隊による熱いアピールや、関西万博への興味もあり、期待を胸に当日を迎えました。

大会初日は、まだ薄暗い中を仲間二名と共に空港へ向かい、約50分のフライトで大阪伊丹空港に到着。地元とは異なり、到着後すぐに電車でスムーズに移動できる利便性は、羨ましい限りです。

まずは大阪駅へ。駅北側の「うめきた」で進む再開発プロジェクト「グラングリーン大阪」を視察しました。今年9月に先行開業したオフィス・ホテル・商業施設が集約され、駅直結の「うめきた公園」が街全体を繋ぐという構想です。ビル群の中に緑の癒しを感じさせる空間に目を奪われながら散策しました。

各建物は斬新な構造や空間利用、仕上げが施されており、非常に参考になりました。また、週末ということもあってか、地元では考えられないほどの人の多さには圧倒されました。



いよいよ大会会場「グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）」へ。中之島に立地するこの施設は、その名の通りモダンなキューブ型の外観が特徴です。2,600㎡の無柱メインホールで開催された式典は非常に盛大で、館内のバリアフリー計画も参考になりました。その後の大交流会（リーガロイヤルホテル大阪）は1,000名を超える参加者で埋め尽くされ、用意された料理やお酒を楽しみながら、地元の仲間や他県の方々と親睦を深めることができました。



二日目は関西万博会場へ。夢洲（ゆめしま）駅に到着した途端、人の波に揉まれ、東ゲートからの入場に約1時間を要するという洗礼を受けました。

まず目を引いたのは、シンボルの「大屋根リング」です。世界最大の木造建築物としてギネス世界記録にも認定されたこの建物は、杉・桧・松の集成材を用い、伝統的な「貫（ぬき）」接合に現代工法を組み合わせた構造となっています。その壮大なスケールには圧倒され、日本の建築技術の高さを改めて実感しました。

万博終了後は大半が解体されるとのことですが、個人的には国の補助金や余剰金などを活用し、何らかの形で存続してほしいと願うばかりです。

当日は来場者数が20万人を超える猛暑日。各国パビリオンへの入場を試みましたが、多くが入場制限となっており、外観見学が中心となりました。しかし、各国の材料・技術・文化を融合させた斬新なデザインには強い感銘を受けました。

イタリア館や日本館、アメリカ館、パソナパビリオンなどを内覧できなかったのは心残りですが、「万博は早い時期に行くべき」という鉄則を痛感しました。



最終日は早朝から大阪城を訪れました。広大な敷地の中心にそびえ立つ天守閣は、度重なる戦火で焼失した後、約90年前に復興再建された登録有形文化財です。石垣や堀、大手門を除き、建物自体はRC造であるという説明を受け、意外な事実には驚かされました。

その後は通天閣付近の賑やかな商店街を抜け、あべのハルカスへ。地上300mの景色を望めるこの超高層ビルでは、16階から60階までを45秒で移動するエレベーターで一気に絶景の世界へ。天空のゲストルームのような空間に、しばし癒やされました。



三日間の行程を振り返ると、どこを訪れても外国人観光客が8割以上を占めているように見受けられ、インバウンドの勢いを肌で感じる見学となりました。

最後になりますが、大会運営に尽力された大阪府建築士会の皆様、ありがとうございました。参加された建築士の皆様、足の痛みはいかがでしたか。今回のおおさか大会はとにかく「歩く」場面が多く、日頃からのウォーキングの大切さを身に染みて感じる三日間となりました。

第10回おおいた建築セミナーin大分に参加して

佐伯支部 富澤 恭一郎

12月13日に「第10回おおいた建築セミナーin大分」に参加しました。

テーマが「50 to 50」大分支部に県下初の青年部が発足して、50周年の節目の年ということで、これまでの50年、次の50年を見据えたセミナーでした。

基調講演が「20 to 50」市町村合併により挾間町、庄内町、湯布院町が由布市となって20年となる由布市の相馬市長の講演で「由布市のこれまでとこれから」というテーマでした。

由布市の地域ごとの魅力と課題、それについて西田稔彦氏、石井鏡成氏、伊藤憲吾氏のクロストーク、御三方それぞれの立場からの見解が非常に興味深く、一回のセミナー講演で終わらずに、地域住民や行政も交えて行えると、より深く、建設的なクロストークになるのではないかと感じました。



その後の分科会では、Aコース「じだい to トーク」に参加しました。

第一部は廃校活用トークセッションで佐賀関の廃校をアトリエとして活動している現代美術家のKana氏が登壇、初めのあいさつで会場の雰囲気、芸術家Kanaカラーに一瞬で変わったのを感じました。

Kana氏の作品は大分駅や大分農業文化公園るるパークなどに展示されていて、“かわいい”をテーマに作品を制作しているそうです。アラフォーの私が見てもかわいいと思うキャラクターはも

ちろんですが、絵のタッチの柔らかさや、素材が持つ柔らかさや温かさが伝わってきて、感動しました。

廃校活用の内容では、地元の人が廃校へ来てくれるという話を聴きました。廃校というかつて子ども達の声が響いていた場所に、再びアートを通じて人が集まるというストーリーがとても素敵だと感じました。



第二部は歴代青年委員長トーク



歴代青年委員長トークでは時間の都合上、多くを聴けませんでした。青年部のこれまでの歩みを各支部共に繋げていけたらと思いました。

懇親会 oita yukai~ゆかい~

日頃接点の無い他支部の方々と意見交換ができ、大変有意義な時間となりました。

今後の実務においても大変参考となるお話を聴くことが出来ました。また、建築士らしいこだわりのあるレクリエーションもとても面白かったです。

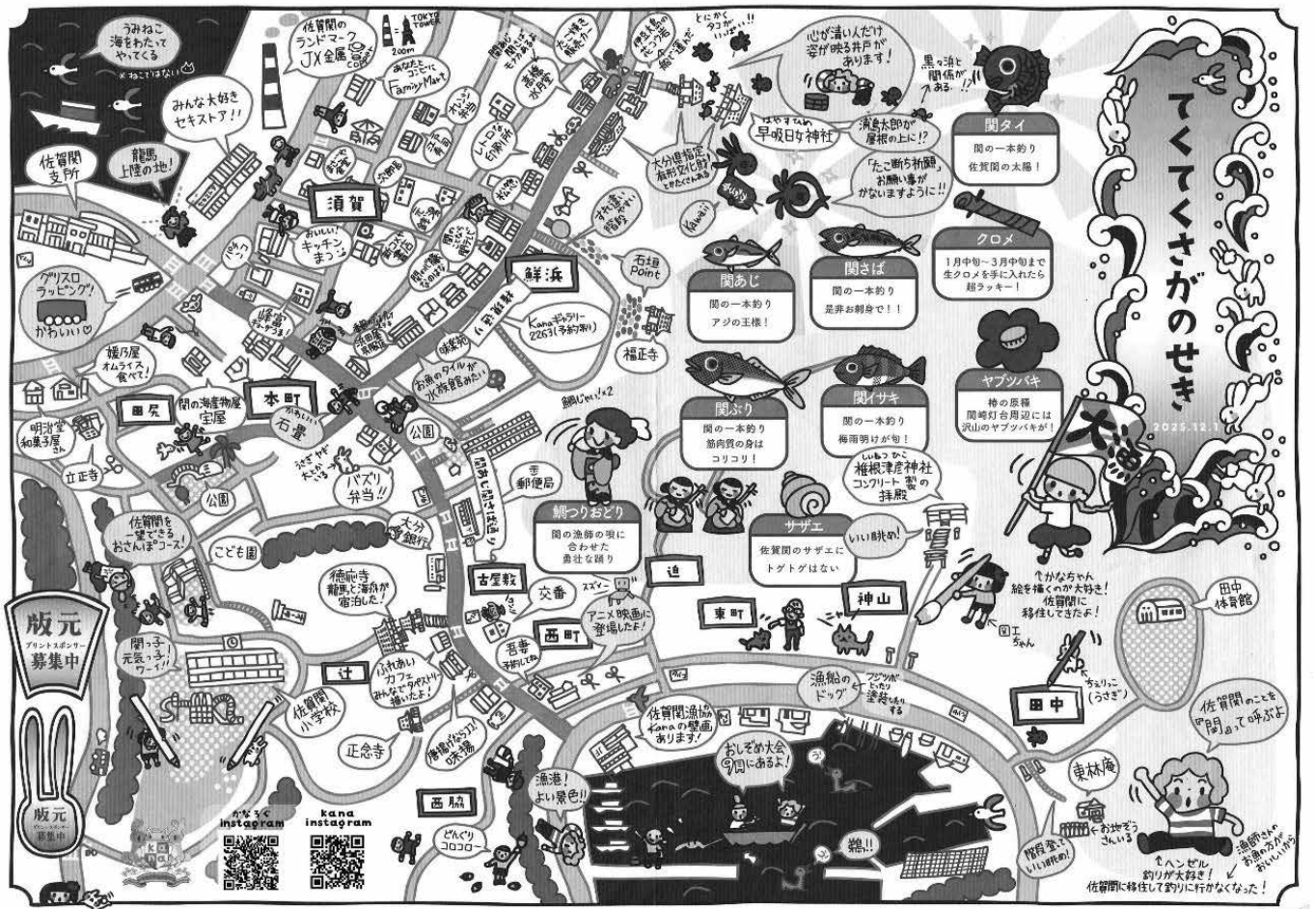
美味しい食事と共にリラックスした雰囲気です楽しい時間を過ごす事ができました。

私が参加した基調講演、分科会Aコースでは、今回のテーマ「50 to 50」「これまで」と「今」そして「これから」を色々な角度から考えることができ、有意義な時間となりました。

今回のセミナーの準備から当日の運営に携わった執行部の方々には本当に感謝しております。



二日目のエクスカーションには参加しませんでした。Kana氏の描いた「てくてくさがのせき」を持っての佐賀県探索もしてみたかったです。↓



第10回おおいた建築セミナーin大分 開催報告

大分支部 甲斐啓大

2025年12月13日、大分市ホルトホールにて「第10回 おおいた建築セミナー in 大分」を開催しました。青年部で実行委員会を立ち上げ、4月から月2回集まり、どんなセミナーにしたいかを議論しながら準備を進めてきました。テーマは「50 to 50 (ごじゅうとごじゅう)」。1975年に大分支部で県下初の青年部が発足してから50周年の節目を迎えたことを受け、これまでの歩みを振り返り、これからの活動を考える機会となることを目指しました。会場確保では、例年の11月は100人規模が入る会場がすでに予約で埋まっており、やむを得ず師走へ時期をずらして開催を実現しました。会場には、過去の「建築士おおいた」や歴代青年委員長長の記録、青年部が制作した雑誌「FA」などを展示し、参加者が歴史を手を取りながら語り合える場を整えました。



冒頭では幸会長よりご挨拶を頂戴し、続いて佐賀関支部青年部長・嵯峨氏より先日の火災に関する状況報告がありました。現場の声に触れることで、建築士の使命を改めて共有する時間となりました。基調講演には由布市長・相馬尊重氏をお迎えし、市政施行20周年の節目にこれまでの歩みと今後の課題を伺いました。続くトークディスカッションでは地域科学研究所の西田稔彦氏を交え、相馬市長、石井副

会長、伊藤大分支部長とともに、由布市の将来像と建築士の領域拡大の可能性について意見交換を行いました。



分科会は4セッションで開催。「じだいtoトーク」では現代美術家のkanaさんと大久保さんから地域とアートの実践、火災における関わりを伺い、さらに初代青年部長・高橋文洋さんを迎えて歴代委員長らと青年部の歩みを振り返りました。



「みなとtoホーバー」では西大分のホーバーターミナル（設計:藤本壮介氏）見学とかんたん港園・生石港町のまち歩きを実施し、悪天候の中でも多くの方に参加いただきました。「めぐるtoビール」「まちtoフード」でも市街地や駅周辺を巡り、歩くことで見えてくるまちの魅力を共有しました。



翌日のエクスカージョンも佐賀関支部のご協力のもと実施し、地域資源を巡りながら未来を考える機会となりました。師走の開催にも関わらず、本大会98名、懇親会68名と多くの方にご参加いただきました。ご尽力いただいた皆さま、ご参加の皆さまに心より感謝申し上げます、次の50年に向けて本経験を日々の活動に活かしてまいります。



懇親会はoita yukaiで開催し、各支部からの差し入れのお酒や催し物も相まって世代間交流が深まりました。

長さ当て、スケッチ大会の催し物、お酒の交わし合いのおかげで私も飲みすぎてしまいました。



「清水寺」と「きじ車」

廣瀬資料館 園田 大

去年から地域の文化財紹介を始めました。今回は福岡県みやま市の清水寺（きよみずでら）と「きじ車（きじぐるま）」を紹介しします。さて、北には筑後川、南には矢部川があり、先人たちにより様々な歴史と文化が「おとされ」てきました。今回はどのような文化でしょうか。

■みやま市

平成19年（2007年）に瀬高町、山川町、高田町が合併し、みやま市が誕生しました。市内を散策すると、東は清水山、西は広い筑後平野が望まれ、「瀬高駅」から観ると明らかです。吉野ヶ里町同様に、清水山も「仏教の聖地」として栄え、著名人がここで修業をして、文化を広め、現在に至っています。

■清水寺を散策して

瀬高駅を降りて清水山へ山を登り清水寺の敷地内に入ると、広さに圧倒されます。みやま市にも最澄（さいちょう・767～822）の「おとし」の文化がありました。

年表 清水寺ときじ車

延暦二三年（八〇四年）

最澄は入唐して天台宗を学ぶ。

延暦二四年（八〇五年）

最澄は唐から連れてきた竹本翁吉を清水に住まわせ、きじ車の始まりとされる。

大同元年（八〇六年）

最澄は清水山に登り大木から千手観音刻み、清水寺に安置する。

令和三年（二〇二一年）

最澄の一〇〇〇年忌。

令和七年（二〇二五年）

きじ車が文化財に指定。

最澄は中国留学後、雉（きじ）に導かれ入山し、大木から清水寺の千手観音を刻み安置したといわれます。当初は本堂も小さかったと想像されます。修学旅行で京都の清水寺を見学して大きさに圧倒されますが、みやま市にも立派な清水寺が存在しました。



清水寺

次にみやま市に「おとした文化」が「きじ車」です。色付けをしているので、明らかに雄と雌が解るようになっているのが注目点です。日田市の隣の玖珠町にも特産品で「きじ車」があります。清水山を中心に山々へ浸透していったのでしょうか。

■祝文化財「郷土玩具きじ車」

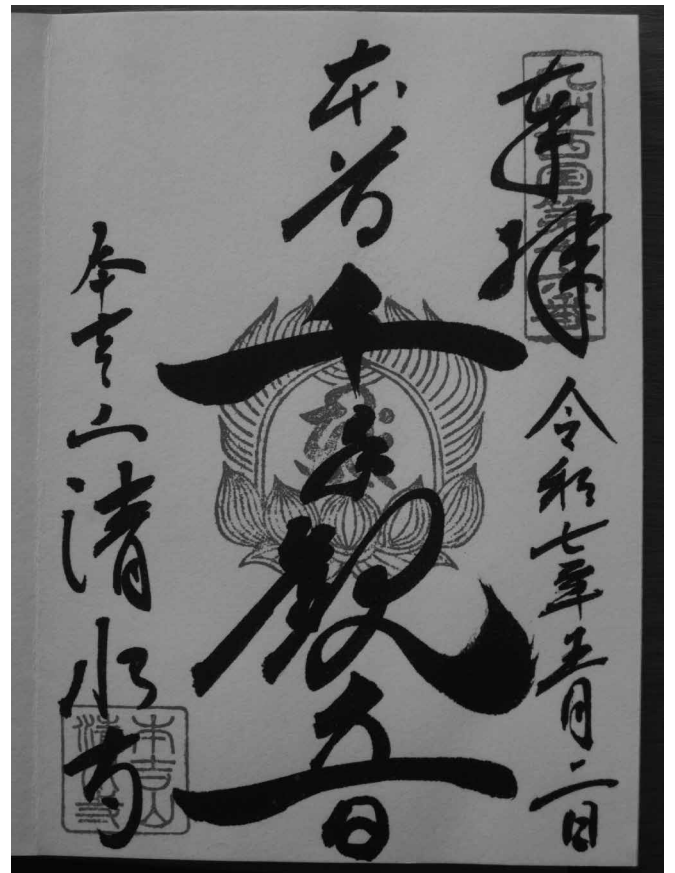
偶然、みやま市のホームページをみて、「きじ車」が文化財の指定を受けたことを知りました。

清水寺散策後、近くのお店に足を運ぶと、大きさを問わず多様な「きじ車」があります。また流行にあわせてキーホルダーと携帯ストラップの小さな「きじ車」もあります。昔は民芸品でお守りとしても珍重されていました。

材質は一年以上乾燥させた松の木をナタで削り、一個一個丁寧に着色して、くぎを使わず製作します。雄と雌に分かれています。

最澄一二〇〇年忌の五年後に「きじ車」が文化財指定を受けたのは何らかのご縁を感じます。

「きじ車」は、雪深い冬場の生活費を稼ぐための手段および内職とおもわれ、「きじ車」は最澄が「おとし」た「おもいやりの文化」ではと想像されます。



清水寺の御朱印



きじ車

朝鮮通信使

廣瀬資料館 園田 大

「日本と韓国」共同で推薦した「朝鮮通信使」が世界記憶遺産に指定されました。当館には朝鮮通信使の史料が数点あります。今回は日田では語られないことがない「朝鮮通信使」を紹介します。

■世界記憶遺産？

皆さん、「世界記憶遺産」ご存知ですか？聞きなれない言葉でしょう。危機に直面した日記・絵画等を保存するためのものです。人類が長い間記憶して後世に伝える価値があるとされる記録です

■朝鮮通信使

江戸時代朝鮮通信使は12回行われています。

- 第1回 慶長一二年（1607）
- 第2回 元和三年（1617）
- 第3回 寛永元年（1624）
- 第4回 寛永一三年（1636）
- 第5回 寛永二〇年（1643）
- 第6回 明暦元年（1655）
- 第7回 天和二年（1682）
- 第8回 正徳元年（1711）

- 第9回 享保四年（1719）
- 第10回 寛延元年（1748）
- 第11回 宝暦一四年（1764）
- 第12回 文化八年（1811）

このうち、廣瀬家の史料は最後の文化八年のものです。

■廣瀬久兵衛の日記

『久兵衛日記』は文化八年一月から六月までの四冊です。日記は久兵衛が21歳の時のものです。注目は、日記を見開きすると、仮名の韓国語と日本語が記されていることです。

更に注目は久兵衛の筆記です。例えば、日記に「火」は「プリ」、「馬」は「マキ」、と記し、久兵衛は通信使の対応のため必死に勉強をしていました。

■朝鮮通信使と日本

朝鮮通信使は、すでに室町時代から始まり、江戸時代には12回も行われました。

江戸時代の日本は中国とオランダのみが貿易国とされ、それ以外は禁止されていました。当時、海外



4冊の久兵衛日記

との窓は出島でした。

しかし、韓国の釜山には日本の海外施設の倭館があり、そこには何百人もの日本人が住んでいました。倭館の面積は出島の25倍あり、33万平方メートルの広い土地に設けたこの倭館こそが海外に設けた唯一の海外公館でした。その窓が対馬で、釜山には対馬船が来訪しました。

■通信使の到着

通信使は外交使節であり、文化使節団でもありました。正使・副使の他に、すぐれた学者・文人・書家・医師などが選ばれ、多い時は500人にもものぼりました。

日本からは対馬藩の船が釜山に出迎え、瀬戸内海を渡り、大阪からは陸路で、江戸城へ到着し、最後は家康を祀る日光東照宮まで向かいました。

日光東照宮に参るのは、関ヶ原合戦後に家康が韓国との信頼回復に努めたためです。第一回目1607年の通信使では、秀吉の朝鮮出兵で捕虜にされた1418名を連れて帰りました。

■通信使の文化

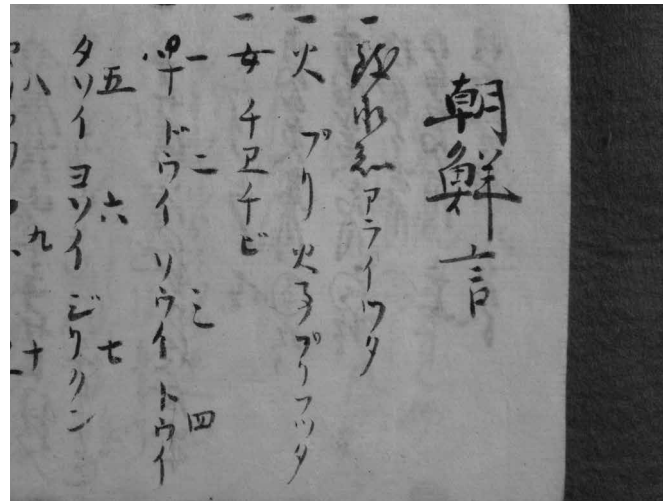
通信使は日本に赴く際は沢山の文化を「おとし」ました。

先ず、室町時代に日本と国交が結ばれると、外国語として日本語が設けられました。江戸時代には庶民は、硯をもっていき書を求め、ハンゲルで日本語を書いて、日本の学者たちをびっくりさせました。

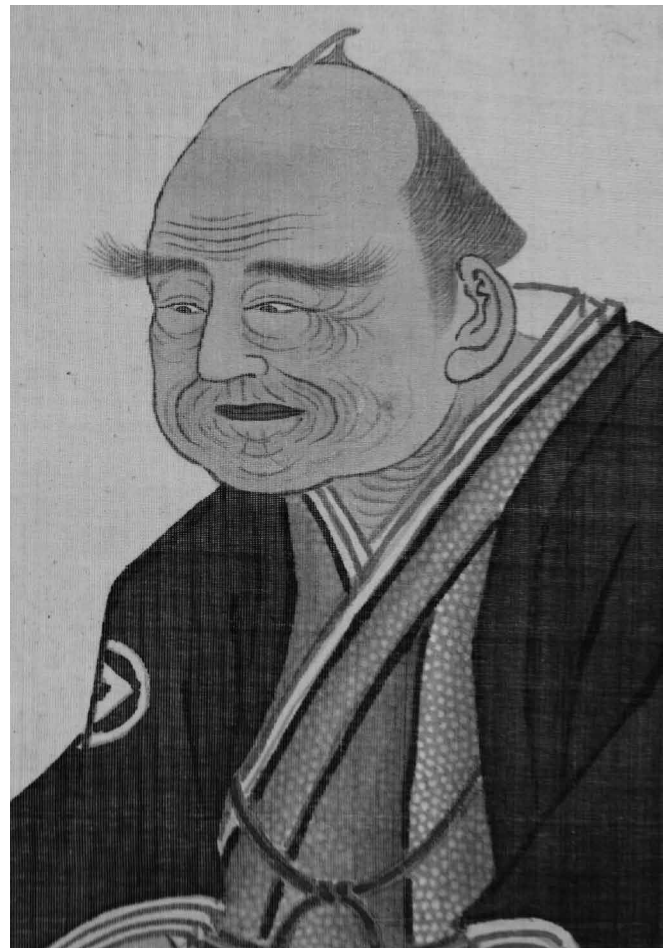
日本では茶会でおもてなしをすると、焼物に感動をしました。通信使一行は宇治茶を第一級品としてあげ、韓国の茶碗が大名や商人の家宝にされていることに感銘を受けました。

江戸時代は外国文化に接する機会が少ないため、通信使の服装は大変珍しいものでした。また私たちの祭りの掛け声の「わっしょい」は、韓国語では「来たよ、来たよ」の意味です。

幕末の日本では、廣瀬淡窓をはじめ沢山の儒学者を輩出しました。その背景は12回にわたる通信使の影響があると思われ、沢山の文化を日本に「おとし」たのでしょう。



日記の韓国語と日本語



広瀬久兵衛

全国の伝建地区を巡る旅 ～名所編～

大支部 松崎和夫

令和元年からスタート・・・

令和に改元された5月1日を契機として、全国で129地区ある国選定の「重要伝統的建造物群保存地区」（以下「伝建地区」と呼ぶ）を巡る旅を始めた。伝建地区の中には京都や金沢、函館など有名な観光地として全国に知られているところも数多くあり、カウントしてみると現在、56地区訪れている。

「伝建地区」は、武家町や商家町、在郷町などの町並みについて昭和50年の文化財保護法の改正により創設され、新しいカテゴリーの文化財と言える。私は行政職の時代に、大分市の南部地区に位置する戸次本町の歴史的町並み再生に関わる業務を担当したことをきっかけとし、歴史的な町並みや建造物の奥深さに魅了されてしまった。

豊後と繋がる名古屋市「有松」・・・

名古屋市の有松地区は名古屋駅から名鉄名古屋本線を東方向に向かい、途中熱田神宮を経て約30分のところである。普段着物を召される方や染め物に興味を持たれている方は有松絞りとしてご存知だと思う。かつて東海道五十三次の街道筋の絞りや染め物のまちとして賑わっていたことから、全国からまちづくり関係者数百人が集う全国町並みゼミの第1回と第40回を開催している、言わばまちづくりの横綱格である。旧街道筋には屋根全体にいきわたるような大きな「うだつ」を載せた豪華な商家が建ち並ぶ。驚いたことにこの有松絞りは豊後絞りがそのもととなっているという。名古屋城の築城に訪れた加藤清正公が、豊後絞りの職人(大分市鶴崎地区)を引き連れており、そこから有松に絞りが根付いたらしい。

京都の四地区・・・

次に京都市である。京都はまち全体が伝建地区といっても過言ではないかもしれないが、四地区が選定されている。「産寧坂」、「祇園新橋」、「上賀茂（社家町）」、そして「嵯峨鳥居本」である。産寧坂は清水寺に向かう人気の観光スポットでありながら、



旧 東海道筋「有松」の町並みと連なる歴史的建築物

裏路地のような石堀小路は喧騒を離れて静かな佇まいである。祇園新橋は連なる茶屋町と通りに沿った竹矢来が遊行の地としての風情を一層際立たせている。上賀茂は上賀茂神社に仕える神官の社家町としての町並みであり、各屋敷へは明神川に係る石橋を渡ってアプローチし、土堀を有するなど武家屋敷と見まがうばかりである。嵯峨鳥居本は嵯峨野の最も奥で火伏の神として信仰を集めている愛宕神社参詣の門前町としての町並みが形成されている。京都の夏の風物詩五山の送り火の一つである鳥居型としても京都人には馴染みである。これらを訪れることで洛中の社寺巡りとまた違った趣で新しい京都を堪能できること間違いないと勝手に思っている。



水路に掛かる石橋が特徴的な上賀茂神社社家の町

北関東はいずれも川越流!?・・・

東京以北の北関東の伝建地区は、川越（埼玉）をはじめとして、嘉右衛門町（栃木）、桐生新町（群馬）、真壁（茨木）佐原（千葉）を巡ってきた。共通点を探求したわけではないが、いずれも屋根の造りが似通っていることに気づいた。



埼玉県川越市 川越 鬼瓦と棟の造りが豪奢

埼玉県川越市の川越地区は新宿駅から西武鉄道で小一時間も乗れば着く。県道沿いに立ち並ぶ商家群の屋根の重厚さに驚かされる。鬼瓦と棟の造りが尋常な大きさではない。連られるように下がり棟などの役物も大がかりである。重量が気になって内部に入ると一階の柱はなるほど6～7寸角である。都心から近いこともありまた、お芋の土産も人気で修学旅行の学生やインバウンドで、町はまさに観光公害化の様相を呈していた。



栃木市 嘉右衛門町

栃木県栃木市の嘉右衛門町。江戸時代にこの地を開拓した豪商の名前に基づく。伝統建築が建ち並ぶのは「日光例幣使街道」という街筋。当時、徳川家康の命日である四月に毎年、京都にある天皇家が中山道からご当地日光例幣使街道を通過して日光東照宮にお参りしていた。屋根の重厚な造りは川越の兄弟分に相応しい。



群馬県桐生市 桐生新町

桐生新町は「西の西陣、東の桐生」とうたわれた絹織物で有名な町である。群馬県内では世界遺産の富岡製紙工場で作られた高品質の生糸を、ご当地で桐生織物として栄えた地区である。写真はかつて隆盛を誇ったであろうみせ蔵。こちらも川越の兄弟分と言える。訪れたときには残念ながら蔦に覆われ、空き家となっていた。岡山県の吹屋地区や次に登場する真壁地区でも空き家が散見された。歴史的建築物が空き家となっている状況は寂しいかぎりである。



茨城県桜川市 真壁

茨城県の桜川市真壁は筑波山の北側裾野に位置する。全国の伝建地区のなかで珍しく行政の指定文化財がない地区である。一方では百を超える登録有形文化財があり、ほとんどが修理されていて指定文化財不在でも、見ごたえのある地区である。東日本大震災でかなり被害を受けたようだが、災害補助金をうまく活用して現在に至っている。写真は石蔵であるが、屋根の造りは兄弟分ほどではないが、一般の地区以上存在感のある鬼瓦などの役物の造りである。



千葉県香取市 佐原

千葉県香取市佐原は、利根川の支流である小野川沿いの商家群がかなりの数保存されている地区であり、しかも現在も醸造業などのお店として営業している。川幅が狭いので対岸からは柳のカーテン越しの伝統建築物が絵となる。テレビのコマーシャルの背景にも使われている。これまでの荒ぶれた地区と一線を画してお洒落でもある。そしてここでも屋根には川越流の屋根が鎮座している。



国指定重要文化財旧鍋島邸



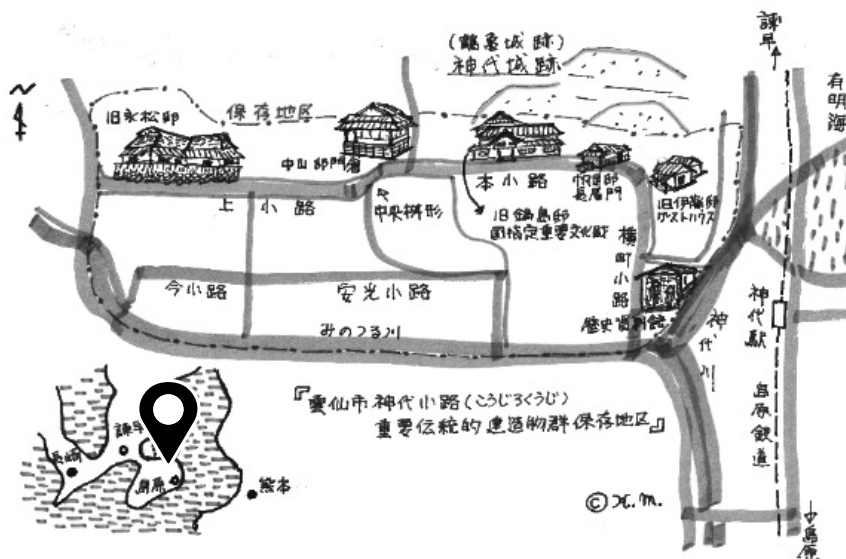
鍋島家養育係旧永松邸

九州にも穴場あり・・・

九州には熊本県を除いて沖縄まで含めて24地区の伝建地区がある。昨年の秋には長崎県島原半島の神代小路（こうじろくうじ）を訪れた。ご当地は豊臣秀吉の時代に佐賀県鍋島氏が統治することとなり、旧鍋島邸は国指定重要文化財となっている。1700年代に建築された二階建て寄棟茅葺の「御北」と呼ばれるご当主の寝所から、明治・大正期増築の近代和風の書院座敷まで、一連の建築群は見ごたえたっぷりである。さらに鍋島家養育係を務めた旧永松邸は茅葺で、佐賀県を代表する「くど造り」となっており、平面がくど（かまど）に似てコの字の形態をしている。

AI何するものぞ! 伝建地区・・・

地区を訪れる際にはなるべく地区のまちづくりに関わられた方々にお会いして、苦労話などお聞きするように努めている。そこにはパンフレットやAIからは得られない素材やストーリーが隠れている。そして予想しなかったかつての大分（豊後）との繋がりが見えてくることもある。ITデトックスとまでは言わないが、歴史を紐解きゆったりとした時間に想いを馳せながら、銀鼠色の粘土瓦や真っ白な漆喰壁、リズミカルな竹矢来などに囲まれた至福の時空に浸ることができる伝建地区を巡る旅である。（本稿は大分支部ニュースに隔月で連載させて頂いているものを編集しています。）



【活動報告】

大分駅周辺の建築と歴史を探る「まち歩き」

大分支部 市野瀬 康平

大分支部青年部まちづくり班（おおいた歴史建築研究会）では、支部会員の久野緑朗氏によるガイドのもと、大分駅周辺の建築と歴史を紐解く「まち歩き」を開催しています。

■ 府内城下から続く街の記憶

大分市中心部は、戦国時代に大友氏が去った後、豊臣秀吉の時代に築かれた府内城を中心に城下町として発展しました。かつては内堀・中堀・外堀の三重の堀に囲まれていましたが、明治9年の中堀埋め立てを皮切りに、大正時代にかけて外堀も埋め立てられ、現在の地続きの街並みとなりました。今も街を歩くと、外堀の跡を留める小川や水路が残っており、当時の名残を肌で感じることができます。（写真1:外堀の跡 長浜町）



(写真1:外堀の跡 長浜町)

■ 建築士の視点で捉える街の変遷

戦時中の空襲や建物疎開により、多くの建物が一度は失われましたが、「大分銀行赤レンガ館（旧二十三銀行）」や「みずほ銀行（旧日本勧業銀行）」など、当時の姿を留める貴重な近代建築も現存しています。また、万寿寺をはじめとする古刹も、広大な境内とともに美しく保存されています。（写真2:万寿寺山門 金池町）また、芸術作品も多く点在しています。（写真3:石の滝 流政之 県庁1階）

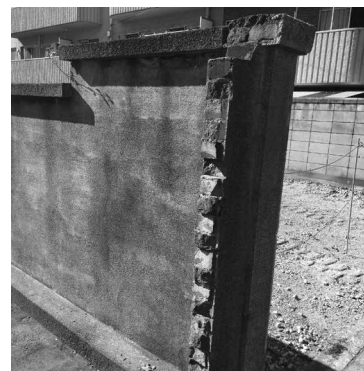


(写真2:万寿寺山門 金池町)



(写真3:石の滝 流政之 県庁1階)

建築士同士で歩くと、「サッシの形状やレンガの材料から建築年代を推測する」といった専門家ならではの視点や、知人が設計した住宅の発見など、多くの刺激と楽しみがあります。（写真4:鉾津レンガの塀 大手町）



(写真4:鉾津レンガの塀 大手町)

■ 朝の時間を有効活用

本活動は、原則として午前7時から9時の「朝活」スタイルで実施しています（冬季は10:00～12:00）。「時間を効率的に活用でき、健康にも良い」と参加者からも好評です。

活動履歴

第1回

令和7年8月9日7:00～9:00 西新町、笠和町方面

第2回

令和7年9月13日7:00～9:00 外堀跡、塩九升口方面

第3回

令和7年10月5日7:00～9:00 長浜町方面

第4回

令和7年11月30日10:00～12:00 県庁、金池町方面

第5回

令和8年1月10日9:00～11:00 県図書で文献調査



集合写真 中央町



耐震診断講習会 実施報告

中津支部 山村 増治

令和7年10月11日（土）既存住宅活用のため、耐震診断の実務能力向上を目的とした講習会を行いました。参加者は13名で、午前の座学と午後の実地講習の二部構成で行いました。

午前の部は、耐震診断における行政への補助金申請書類および建築士会に提出する審査書類の作成方法を中心に診断結果の精度はもちろん、補助金申請や審査をスムーズに通過させるための「書類の整合性」や「記載のポイント」など、実務で躓きやすい点に重点を置いて講義を行いました。



午後の部では、中津市所有の旧耐震の建物を活用し、実際の調査手順を確認しました。

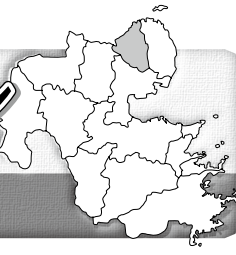
- ・耐震診断別紙様式に記載する内容について、現地で確認する部分やチェック項目についての指導。
- ・診断ソフトに入力する耐力壁の判別と低減方法について、調査で確認すべき項目、調査写真の撮り方、着眼点や判断基準についての指導を行いました。



受講者からは「書類作成の具体的な注意点が理解できた」「実際の建物を見ることで調査の重要性が実感できた」との声がありました。

初めての試みとして、実務に直結する「理論と実践の橋渡し」を意識した内容にするつもりでしたが、やはり一日では伝えきれないことも理解しました。

今後は講習会ではなく、少人数で耐震診断の実務を共有し、診断ソフトへの入力方法や調査内容のポイント、審査書類の作成等を学んでもらい、耐震診断が行える技術者を増やしていく予定です。



県北支部長会議

高田支部 後藤 憲二

2月21日（土）県北支部長会議は、昨年の玖珠支部での開催から今年は高田支部で開催し、会議に先立ち豊後高田市内を散策してもらうことに。前回、高田支部で開催した時には昭和の街を散策したので今回は郊外のコースを設定した。（私は、仕事がかぶってしまい散策には参加できず会議の途中から参加）



まずは国東半島の六郷満山文化を代表する2つの古刹へ、まずは国宝の大堂がある富貴寺に、この大堂は九州最古の平安建築で阿弥陀如来座像が本尊とし



て安置されており、内部は極彩色で仏菩薩、宝相華、唐草などが描かれており、宇治平等院鳳凰堂、平泉中尊寺金色堂と並び日本三阿弥陀堂と称される。大堂の周囲にある僧侶が修行時に使用したとされる梵



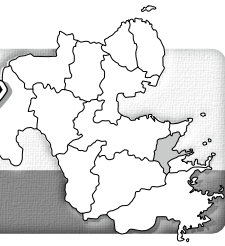
字が刻まれた仁聞石、鎌倉時代の笠塔婆、室町時代の国東塔なども見学。次にかつて六郷満山の寺院の本山本寺で再々規模を誇った真木大堂へ、現在はかつての壮大な伽藍は残っていないが安置されている阿弥陀如来座像や巨大な不動明王像などの国の重要文化財である平安時代の名作仏像を見学。

内陸部の寺院の次は海岸線へ、SOBACAFEゆうひから夕日百選にも選ばれている真玉海岸を眺めるとそこにはピンクのどこでもドアが、これを通して会議会場へとはいかなかった。



会議は、わが高田支部の青年部長の荒川さんが手掛けた古民家を一棟貸の宿泊施設miwa! BASE. おにぎりカフェ「うめおとまさこ」で開催。各支部の活動報告に続き建築士会の活性化について、建築士会は建築に携わる全ての方が参加できるが施工管理技士の資格を持っている方が参加していない状態、どのような参加方法が可能であるか議論、士会活動に幅を持たせるためにも重要なことではないかと一同同意し引続き検討課題とする。研修の単独支部開催が難しい現状もあり県北支部共同での開催についても取り組んでいくなど最後は時間切れとなり、引き続き同施設のレストランで懇親会に突入、スペインで修業したシェフによるスペイン料理とイタリア料理の要素を取り入れた料理を堪能しつつ楽しい宴を過ごしました。





県南ブロック研修会 「臼杵石仏国宝指定30周年」&会議

臼杵支部 桑田 一敏

国宝指定から10年くらいか、いや、指定からまさか30年も経過したとのことで、県南6ブロック研修会の題材となった。いや仏さまたちがそれを希望なさった。令和7年11月29日（土）快晴、朝はかなり冷え込み、支部のハッピーが意外にも防寒対策に有効なことは竹宵でも学習済み。ご存じのように大分県は磨崖仏の宝庫！なぜか県外では稀。そしてその中でも「国宝」に指定されているのは「臼杵石仏」だけ。けれども地元大分の建築士で石仏を語れる会員はどれほど居るのか…ということで「改めて臼杵石仏を学ぼう！」と企画したところ、県本部から幸会長も遠路はるばる来られ総勢19名！

語れるのはガイドさんしか居ないと全員の認識で、大分臼杵石仏参拝祈願ガイド会会長である豊臣兄弟の兄「秀吉」こと、池辺秀吉氏が担当してくださった。



ガイドの池辺秀吉氏

さすがに天下を取った秀吉氏は、並の人ではなく、流暢に2倍速で専門的に石仏を語ってくださった。

で、当方の記憶に残ったのは、その語り口と知識の幅広さ、具体的には、「石仏の序列」や彫り師の技術の「巧みさ」など、私の年代の人なら、最も有名な大日如来さん、その頭部が巨大で三十数年前までは胴体の下にかなりの存在感をもって「頭だけ」鎮座していたこと。

国宝に指定される直前までは頭部と胴体が別々だった記憶で、とても大きな頭でしたが、しっかりと胴体の上にお

戻りになって、「思ったより小さい」と感じた方も多いとのこと。しかしその神々しい、いや仏々しいことに改めて感動。秀吉氏の説明では、どこの大日如来も冠をかぶっている。そういえばそんなお姿をよく見かける気がする。しかし地震か劣化かで胴体の上、地上2mくらいの高さから落ちた際に、冠が壊れてしまったらしいとのこと。いやこれは冠がクラッシュブルゾーン（衝突軽減効果）となり凝灰岩でもろいはずの頭部が守られたのではないかと筆者は工学的に推測したのである。まさに神業いや仏業である。



大日如来さんを囲んで忍者のポーズで記念撮影

臼杵石仏の学び直しのあとは、ブロック会議。会員数が漸減する中、太刀魚のかば焼きを食しながら、まじめに会員の負担軽減などブロック会議や研修のあり方・やり方などについてみっちり意見交換。

また、先の佐賀関大火に対してブロックとしてお米を寄付したことも高野ブロック長からも報告がありました。



会議での幸会長あいさつ

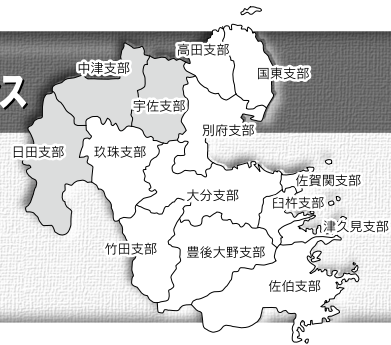
各支部の皆さまと、会議は会議のためにあるのではなく、そこでの意見をいかに次に活かすことですよ。という認識を共有できましたし、ブロック間で顔を知らない人も多かったので、好評だった豊後大野でのパークゴルフ大会など、これからいろんなイベントをブロックで協力し合って楽しくやろうではありませんか！


PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス


個人が他人に及ぼす影響力


我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



氏名	井堀 仁堅	生年	平成6年	 <p>井堀 仁堅(中津支部)</p>
勤務先	(株)井堀工務店			
趣味	考える事			
将来の夢、モットーなど	<p>建築は楽しいなあと思いつつ、日々仕事をしています。まだ経験も知識も少ないため、さまざまな職種の皆さんにご相談させていただきながら勉強しています。いつもありがとうございます。</p> <p>モノづくりに携わるすべての人に感謝の気持ちを持ち、日本の技術を継承していきたいです。頑張りましょう!</p>			

氏名	森崎 真人	生年	昭和54年	 <p>森崎 真人(宇佐支部)</p>
勤務先	大分県日田土木事務所			
趣味	読書			
将来の夢、モットーなど	<p>我が街となっていますが宇佐市在住ではありません。</p> <p>細々と業務を行っています。</p> <p>今後ともよろしくお願いたします。</p>			

氏名	服部 浩治	生年	昭和47年	 <p>服部 浩治(日田支部)</p>
勤務先	日田市役所			
趣味	日田市内の歴史的名所・旧跡巡り			
将来の夢、モットーなど	<p>大学では、木質材料と木構造を勉強し、林野庁に入庁しました。若い時には、旧大山町役場、国土交通省住宅局にも出向していました。木材を建築物に利用することは、炭素を貯留・固定し、大気への放出を防ぐとともに、鉄鋼、セメントなどエネルギー多消費型の材料の消費を抑制し、建築時の省エネに貢献します。更に、木質系の建築解体材を燃料にして熱や電力に利用することで化石燃料の消費を抑制します。気候変動を緩和するためにも、日田材、大分県産材が建築物へ利用されるよう促進したいと思います。皆様のご協力をお願い申し上げます。</p>			

MY WORK

- ★建物名称 別府市立図書館・別府市共創交流拠点こもれびパーク
- ★建築場所 大分県別府市大字別府字野口原
- ★構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建
- ★延床面積 約5,000㎡
- ★設計 株式会社 佐藤総合計画
- ★施工者 建築工事 奥村・幸建設工事共同企業体
電気設備工事 大分電設・別電工業建設工事共同企業体
機械設備工事 小俣・ツー・バイ・ツー建設工事共同企業体

★設計趣旨

傾斜地に沿って1階にアクティブcommons、2・3階にはラーニングcommonsを中心にした図書館を配置し、別棟には多目的ホール・スタジオ、地域・郷土資料館を配置した。館内の活動が見えるよう人や車の往来が多い富士見通りに面してカーテンウォールを設置した。



- ★建物名称 T様邸
- ★建築場所 大分県日田市
- ★構造 木造平屋建
- ★延床面積 149.05㎡
- ★用途 一般住宅
- ★設計 株式会社 幸建設
- ★施工者 株式会社 幸建設
- ★設計趣旨

火山灰(シラス)を原料とした塗壁や障子、木製造作窓などを積極的に用いて現代的な暮らし易さにも配慮しつつ、日本建築らしい暖みのある住まいとした。



MY WORK

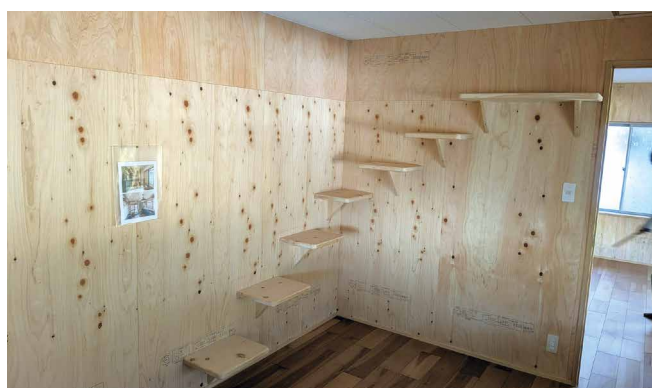
- ★建物名称 植田公民館長寿命化改修工事
- ★建築場所 大分市
- ★延床面積 2224.76㎡
- ★構造 RC造一部S造2階建
- ★設計 (株)大洋設計
- ★施工者 平和・後藤総合特定建設工事共同企業体
- ★設計趣旨

本工事は「大分市教育施設整備保全計画」に基づき、建物を築80年まで使用できるように長寿命化改修工事を行う。



- ★建物名称 T邸改修工事
- ★建築場所 由布市
- ★延床面積 約90㎡
- ★構造 木造 平屋
- ★設計 高倉一之
- ★施工者 (有)マルコー創美
- ★設計趣旨

猫と一緒に生活できる家に古い家屋を改修しました。キャットウォークをどこにでも設置できるようにコンパネ等で内装を仕上げています。



BOOK My Best Book

マイベストブック

『大分のトリセツ』

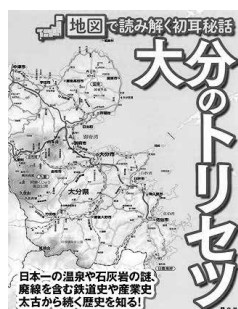
著者:アッシュ他

佐賀関支部:井上 雅順

この本の発売は2021年12月と少し時間が経っている上に発売日以降は書店の目立つ所にドカンと陳列されていたのでご存じの方も多いたと思うが、旺文社が出版した本著はフルカラー112ページのまさに「大分の取扱説明書」である。表紙のサブタイトルに「地図で読み解く初耳秘話」とあるように大分の古代史から近現代史までの歴史や産業史、鉄道交通整備、温泉から神仏、町村合併、阿蘇山噴火に端を発した自然景観の成り立ちまでありとあらゆる大分県のディープネタが写真や地図と共に満載で、しかも各話が見開き1ページ完結なので読んでいて飽きさせない。この本の発売時点で43の都道府県のトリセツシリーズが発売されていて、九州沖縄ではなぜか宮崎県だけ未発売だったが現在は無事に発売されている。

一部内容を紹介しますと、パート1の【大分の大地編】では「名勝・耶馬溪はどうやってできた?」、「祖母山ではかつて大規模なカルデラ噴火があった」等の火山マニアがわくわくする内容。パート2の【大分を駆け抜ける鉄道網編】では「消えた国鉄宮原線の在りし日の姿」、「大分交通別大線の栄枯盛衰」等の鉄オタ歓喜の内容。パート3の【大分で動いた歴史の瞬間編】では「宇佐神宮が支配した豊前と武士が活躍した豊後」、「大野川流域で栄えた水上貿易」、「九州のオランダと呼ばれた日田で金融業が発展した理由」等の歴史好きが喜ぶ内容。最後のパート4の【大分で生まれた産業や文化編】では「寒村から由布院がやり遂げた起死回生」、「豊後水道が好漁場の秘密と関アジや関サバのブランド化」、「もともとは粕取り酒だった!?大分の麦焼酎が全国ブランドに」等の大分県民ご自慢の内容。そのほかに平均所得や地価、失業率などの県内の市町村ランキングや380年以上前の府内城、岡城、中津城のマップ等の資料も載っている。

とても勉強になるし、県外からの通勤族には必ず「大分を知りたいから迷わず読まれよ。」とおすすめしている一冊です。



『いくさじまた～臼杵戦役後始末～』

著者:清水朔 (シミズハジメ)

臼杵支部 松井 健児

タイトルの「いくさじまた」は、サブタイトルの戦の後始末です。

臼杵出身で現在アメリカで活躍する知人の紹介です。

ストーリーは、明治政府の政策に反発した西郷隆盛の暗殺計画の噂に激怒した薩摩の若手士族が蜂起し、熊本、宮崎、大分を舞台に西南戦争が勃発、臼杵も戦場となりました。明治維新の際も、特に戦火に見舞われることのなかった地で、初めて戦争に遭遇することとなった若者が、地元の人を守りぬくことができるか、戦争とはいえ人を殺すことができるのか、葛藤しながらその身を投じることとなります。

この本の執筆にあたり、臼杵市文化財課の元課長神田さんが協力しています。そのおかげで会話にでてくる古い臼杵弁、何を言ってるのか半分くらい分かりません。

私の嫁は、バリバリの臼杵弁を操ります。

「まっこうし」 ※1

「しょうねがねー」 ※2

「いじくそまんきん」 ※3

等を日常的に使いますが、その彼女を以てしても分からない言葉が多数。

是非、読んでみて下さい。

注

※1 真っ向し・・・まっすぐ

※2 性根がねー・・・ふにゃふにゃ

※3 意地くそ万金・・・底意地の悪い奴





My Best Book



マイベストブック

『本陣殺人事件』

著者:横溝 正史

佐伯支部:梅井 達也

私の紹介する1冊は『本陣殺人事件』名探偵、金田一耕助が初登場した作品。本作品は昭和21年月刊誌「宝石」で連載開始された旧家で起きる密室殺人がテーマ。土着的な不気味さと映像的で美しい舞台設定が相まって悍ましくも美しい描写を連想させる横溝ワールド全開の作品です。特に物理的トリックが非常に緻密に作られており読者を驚かせる力は現代でも色褪せないと思われます。その世界観やトリックに魅了され横溝作品の虜となりました。尚、当初の構想では金田一は存在せず、執筆の途中で発想したことが横溝氏の日記から分かっています。日本屈指の名探偵は風貌も独特なら誕生の仕方も独特だと思ってしまうました。

ちなみに、金田一のモデルは劇作家の菊田一夫氏。なので当初は菊田一。だが呼び辛い。それで当時、家の近所に言語学者の金田一京助氏の弟さんが住んでいた事もあり、菊田一を金田一とし、名前も京助を耕助に転じたようです。興味を持たれた方は是非一度読んでみて下さい。



『夢をかなえるゾウ』

著者:水野 敬也

津久見支部:竹田光徳

私は、購入日を最終ページに記録しています。久々に手にしたこの本は2014.10.10（福岡空港）でした。

退職記念に妻と北海道旅行に行くとき、福岡空港で購入したものです。

2007に刊行された単行本を加筆・修正し、文庫化したものです・・・と書かれていますが、単行本と文庫本の違いは?・・・サイズと値段等で、単行本はサイズが大きく値段が高い、文庫本はその反対みたいです（ネット調べ）

本題に入りますが、誰でも夢がかなえられる法則を「ガネーシャ」という神様が教えてくれます。

要は日頃から当たり前のことを、当たり前にサボらず真面目に実行すれば、夢が叶うということが面白おかしく書かれています。

「ガネーシャ」からの課題を毎日実行することで夢が叶います。

- 1.靴を磨く
- 2.食事を腹八分におさえる
- 3.会った人を笑わせる
- 4.トイレを掃除する
- 5.明日の準備をする

等など、29の「ガネーシャ」の名言を基に書き記しています。

言われてみれば、日頃から実行していることも有るし、再確認することも有るし・・・

夢を叶える事が出来るかもしれませんので、是非ご一読を・・・



近況トピックス

佐伯支部 首藤 顕道

干支も4周し、50歳がみえてきました。

私には3人の子供がいますが、長男(高1)と次女(小6)がバレーボールをしています。自分自身も高校生の時にバレー部に所属していたこともあり、子供の練習や試合を観に行くたびに、もう一回バレーしたいなあという気持ちがふつふつと湧いていました。

ただ、ジョギングや水泳と違いバレーボールは一人ではできません。やりたいからといってすぐに始められるものでも無いのです。どこかのチームに入れてもらおうかとも考えましたが、いきなり知らないメンバーに入れてもらうのもなかなかハードルが高い。

…ということをぼんやり考えていたのですが、昨年の建築士会佐伯支部総会の懇親会の時にふと隣を見ると、いるではありませんか！バレーをやっている大先輩が！その方は井上一則さん。建築士会でも長く活躍されている大先輩です。

「仲間に混ぜてください」と打診をしたところ、ふたつ返事でOK！早速、次の週からソフトバレーの仲間に入れてもらうことになりました。

初日でいきなり眼鏡が吹っ飛び、ブロックに跳んでは脚がつりそうになり、独特の変化をするボールについて行けない始末。

翌日は全身筋肉痛になりながら、コンタクトを買いに眼科へ走りました。

チームのメンバーは私より年配の方が多いのですが、皆さん跳んだり打ったり本当に元気です。ついていけるか若干心配になりましたが、不思議なもので徐々に体は慣れてくるものですね。プレー後に必ずストレッチを行うようにしたこともあり、最近は筋肉痛になることも無くなりました。

高校の部活以来、まともに体を動かすことの無かった自分にとって、よい運動、よい気分転換になっています。

また、ソフトバレーをしなければ知り合うことの無かったチームの方達とも仲良くなり、時にはお酒を酌み交わすこともあります。年齢も職業も性別もバラバラの方々との交流は本当に楽しく、さながら大人の部活のようです。

何歳まで続けられるかわかりませんが、70歳になってもまだブロックに跳んでいる井上先輩を目指し、これからも楽しくプレーしようと思います。

れっつ！ハイキュー!!



道具が無いので、服やサポーターは全て子供のを借り、使わなくなった息子のおさがり体育館シューズを履いて体育館へ向かいました。

ソフトバレーは普通のバレーボールとは違い、大き目の柔らかいボールを使います。レシーブしても痛く無く、ボールの速度も遅いので初心者でも始めやすいスポーツです。なので、正直ちょっと舐めてました。

近況トピックス

中津支部 松山 桂嗣

今回、色々頑張っている日高君からのご指名により引き受けましたが書くことが見当たらないということが判明して悩みましたが、何だか最近のトピックスを見ていて「オートバイ乗りが多くいるな」と思っていました。

斯く言う私も原付バイクから始まり普通自動二輪車・普通自動車へステップアップした乗り物好きの人間です。

以前は乗り物好きの友人とキャンプやツーリング等に行き、わいわいしたりするのが良い気分転換になり、季節を肌で感じられ、ツーリング先での初めて会うバイク仲間とバイク談議が出来る良い趣味としていました。



【東京モーターショーにて】



【トヨタ博物館にて】

月日は流れ、オートバイから卒業して自動車でのドライブも少なくなりキャンプ等での自然の楽しみが遠のいていた時、バイク仲間との食事会の際「登山は楽しいよ。健康を考えて初めてはどう？」と勧

められました。キャンプは好きだが登山はきつそう。でも、健康診断でビックリする数値が出ていたこともあり、友人と登山出来る様にまずはウォーキングをしようかなと思っていた時、日田支部の櫻木さんのソロキャンプ動画を見てからウォーキングを始めました。

それと並行して以前使用していたキャンプ道具等の手入れや最新キャンプ道具等見て回っています。最近久しくなかったわくわく感が溜まらないです。

今は仕事終わりにウォーキングしての日々に心地よい疲労感が何だかいいです。休みの日はキャンプ道具を見て回ったりバイク仲間がウォーキング仲間へと。ツーリングとは違った気分転換に段々変わっていくのがいいです。身体的負荷が、年齢的にも今の所が丁度良いかもしれません。

今後、出来れば友人と共に北海道にて眺めていた山に登山が出来る様に、日々トレーニングで歩いて参ります。

最後に月1位で行く県北で有名な八面山の景色を…



【北海道 ツーリングにて】



【八面山にて】



マーボアの旅先日記 其の24

顧問 井上正文



奈良県の国宝建造物を巡って (1)

奈良県内には23か所に国宝建造物が点在しています。京都府内の30か所について国宝建造物の宝庫と言えます。これから3回にわたって、奈良県の国宝建造物を紹介していこうと思います。

その初回としては、奈良市内中心部から少し離れた地域（奈良県南部・西部・東部）に点在するものを中心に選んで紹介しましょう。

法隆寺、薬師寺、東大寺、興福寺といった極めて著名な国宝建造物については次回以降紹介していきます。

奈良県の県北部地域は温暖で乾燥した気候に恵まれ、農業も盛んで人口も比較的多く、大阪や京都を勤務地とする県民のベッドタウンも広がった地域となっています。

一方、吉野川を挟んで県南部の地域は年間降水量も多く、広大な森林地帯が広がる地域です。

それでは奈良盆地周辺部を時計回りで順に、10か所の国宝建造物を室生寺を手始めに紹介していきます。

○室生寺

境内には3つの国宝建造物（五重塔、金堂、本堂）（写真1～3参照）があります。室生寺は女人高野ともいわれ、女性の参拝も受け入れてきた歴史のあるお寺です。

五重塔は小振りで瀟洒な塔が特徴で、赤白のコントラストが際立っています。1998年の台風被害に見舞われ、大木がこの五重塔に覆いかぶさり瀕死状態となりましたが、2000年7月に完全復旧しています。



(写真1) 室生寺五重塔



(写真2) 室生寺金堂



(写真3) 室生寺本堂

○宇太水分（みくまり）神社

鎌倉時代の創建で春日造の社殿（写真4参照）が3棟並んだ珍しい形式となっています。この本殿は、1320年（元応2年）に建てられた鎌倉時代の建築で、国宝に指定されています。3棟はいずれも「一間社隅木入春日造」という様式で、それぞれ速秋津比古神、天水分神、国水分神の水分三座を祀っています。各棟は大きさも形も同じです。平成15年（2003年）には大規模な修繕が行われ、創建当時の朱色の鮮やかな姿が復元されました。



(写真4) 宇太水分神社本殿

○長谷寺

花のお寺（牡丹、紫陽花）としても人気のお寺ですが、懸造の本堂が国宝指定となっています。

この本堂（写真5参照）は、入母屋造りで本瓦葺きという堂々たるものです。間口も奥行きも9間という広さで、正堂（内陣）と礼堂（外陣）を一つにした「双堂（ならびどう）」という独特の様式を持っています。



（写真5）長谷寺本堂

○栄山寺八角堂（写真6参照）

和歌山県にも近い五條市にあり、興福寺北円堂（国宝）を思わせる八角堂で奈良時代建築の風格を備えています。760年ごろの建立とされています。藤原仲麻呂が建立したと伝えられ、本瓦葺きの八角形の建物です。



（写真6）栄山寺八角堂

○金峯山寺本堂（写真7参照）

東大寺大仏殿に次ぐ大きさを有する室町時代の建築物です。日本古来の山岳信仰に仏教などが結びついた修験道の聖地として知られています。



（写真7）金峯山寺本堂

○当麻寺

オリジナルな東西両塔の三重塔が共に国宝指定となっているのはここだけです。東西両塔（写真8、9参照）のほか、国宝指定の本堂（写真10参照）は平安時代の建立ですが、材料は奈良時代建築の古材が用いられているようです。



（写真8）当麻寺東塔三重塔



(写真9) 当麻寺西塔三重塔



(写真10) 当麻寺本堂

○靈山寺本堂 (写真11参照)

近鉄奈良線富雄駅から南にバスで10分ほどのところにあります。1283年(鎌倉時代)の創建で、入母屋造です。



(写真11) 靈山寺本堂

○長弓寺本堂 (写真12参照)

近鉄奈良線富雄駅から北にバスで15分ほどのところにあります。前出の靈山寺と併せて見学されるとよいでしょう。1279年の創建で入母屋造の和様の建築です。



(写真12) 長弓寺本堂

○円成寺春日堂・白山堂 (写真13参照)

小規模の2つお堂が並んで建っており、最古の春日造の社殿です。これらの建物は、円成寺の鎮守社である春日堂、白山堂(国宝)の拝殿で、棟札によって延宝3年(1675)に建てられたことがわかります。簡素で優美な意匠をもった上質な建物で、江戸時代初期の拝殿として貴重です。

円成寺は江戸時代には幕府の保護を受けて繁栄しましたが、そうした時期に建立されたこの拝殿は、寺の歴史を考える上でも重要な建物です。



(写真13) 円成寺春日堂・白山堂

○石上神宮

奈良盆地東部の遊歩道として有名な「山野辺の道」の北の起点に位置するのでウォーキングを楽しめる機会にこの神社を訪れてはどうでしょう。

拝殿（写真14参照）は入母屋造で鎌倉時代の大仏様の影響を受けています。摂社拝殿（写真15参照）は永久寺が廃寺になった機に移築されたものです。境内にはオナガドリの鳴き声が響いています。



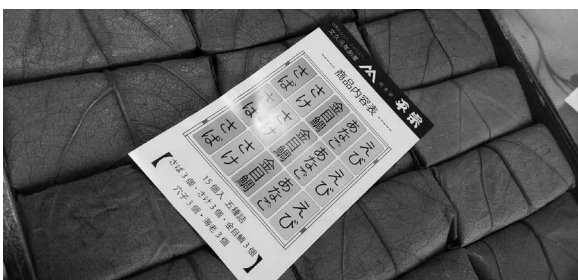
(写真14) 石上神宮本殿



(写真15) 石上神宮摂社

★おまけ★

奈良県内にはB級グルメの「柿の葉寿司」(写真16参照)が有名です。奈良県は内陸部ですから新鮮な魚を口にするのが難しかったことから、防腐効果のある柿の葉で包んだことに起因するようです。



(写真16) 柿の葉寿司

次は「三輪素麺」(写真17参照)です。全国三大素麺(三輪素麺、播州素麺、小豆島素麺)にも数えられる素麺として有名です。



(写真17) 三輪素麺

山野辺の道からも近い「大神(おおみわ)神社」(写真18参照)の参道には三輪素麺を供するお店が並んでいます。



(写真18) 大神神社本殿

日本酒の蔵元も県内に点在していますが、「風の森」「春鹿」などの銘柄(写真19参照)が人気のようです。



(写真19) 奈良の日本酒

事務局だより

■委員会活動報告及び予定

歴史的建造物委員会

<第2回>

令和7年11月10日（月）WEB会議

議題

- 1.「旧大分市情報学習センター」見学会について
- 2.その他

<旧大分市情報学習センター見学会>

令和7年11月22日（土）に「歴史建造物委員会」の主催で、開催されました。

「旧大分市情報学習センター」は、開設から43年が経過し、ICTの進歩や立地、施設整備上の要因から事業の見直しが行われ、2022年4月1日をもって、事業が廃止されました。

近代以降のいわゆる名建築について保存の是非が議論されるなか、久しく使用されないままとなっている磯崎建築について触れる機会を設けることは、歴史的建造物委員会の公益事業として意義があると考えての企画です。

総勢47名の参加がありました。

<気候風土適応住宅小委員会>

令和7年11月25日（火）建築士会会議室

議題

- 1.令和8年4月1日施行に向けて大分県から示された「大分県版気候風土適応住宅基準（案）」の意見聴取について

情報広報委員会

<編集部会③>

令和8年1月17日（土）建築士会会議室

- ・令和7年度「建築士おおいた春季号2026 No.136」の編集部会開催

<編集部会④>

令和8年2月28日（土）建築士会会議室

- ・令和7年度「建築士おおいた春季号2026 No.136」の編集部会開催

青年女性委員会

<第2回>

令和8年2月28日（土）中津市新博多町交流センター

議題

- 1.令和7年度事業報告について
- 2.令和8年度事業計画について
- 3.その他

防災委員会

<第1回>

令和8年2月9日（月）建築士会会議室

議題

- 1.佐賀関「田中連合区復興事務局有識者会議」参加について
- 2.被災建築物応急危険度判定研修会開催について
- 3.住家の被害認定調査研修会
- 4.防災出前講座への取り組みについて
- 5.佐賀関大火後の活動報告

■事務局からのお知らせ

（案内:令和8年度の講習会等）

案内1

「建築士定期講習」について

令和8年度の講習日程等の詳細は、改めてご案内いたします。（大分市と日田市で開催予定です）建築士事務所所属の皆様は、定期講習を受講期限内に受講してください。

案内2

「監理技術者講習」の開催について

（監理技術者以外の方も受講可能）

大分県建築士会では建築工事に特化した内容で「監理技術者講習」を開催しています。特に、一級建築士、1級建築施工管理技士、1級電気工事施工管理技士、1級管工事施工管理技士等の「建築工事の分野で活躍されている監理技術者」にとりましては、

実務に役立つ充実した内容のテキストを使用して講義を行います。CPD 6単位が付与されます。

【講習会日程】

○「毎月第2水曜日」に開催します。

※5月、12月、3月は除きます。

○時間:8:50～16:40〔受付8:30開始〕

※8:45～8:50の5分間に講習の運営説明があります。

○会場:(公社)大分県建築士会会議室

○形式:DVD講習

○定員:各回3名程度

○受講料:WEB申込 9,500円/

窓口・郵送申込 10,000円

※受講申し込みは、日本建築士会連合会HPよりお申してください。

案内3

「既存住宅状況調査技術者講習(更新・新規)」の開催について

改正宅建法の重要事項説明の既存住宅状況調査をするには、この講習会を修了し、登録されることが必要です。

令和7年度の講習日程等の詳細は、改めてご案内いたします。

※申込方法等詳細は、(公財)日本建築士会連合会のHPをご覧ください。WEBからでも申し込みができますので、そちらもご利用ください。

【オンライン学習(新規講習・更新講習)のご案内】

・インターネット環境の整ったご自宅のパソコンや職場のパソコンにて受講可能です。修了考査の解答までオンラインで完結します。

詳しくは、連合会のホームページをご覧ください。

(報告:令和7年10月以降)

報告1

「第1回支部長・支部事務局員・委員長合同会議」について

令和7年11月12日(水)に、コンパルホールにおいて本年度第1回支部長・支部事務局員・委員長合同会議が開催されました。

次の議案について審議されいずれも承認されました。

1.第13回全国まちづくり賞受賞作品 紹介

- 2.本年度公益目的事業(各支部・委員会)の説明
- 3.支部からの質疑・協議事項等について
- 4.各委員会の本年度事業計画について
- 5.外部理事・外部監事の導入について(公益法人制度改正に伴う)
- 6.会員減少対策、財政健全化に向けた議論
- 7.会員名簿の作成について
- 8.令和8年度役員改選について
- 9.よろず建築相談会の実施報告
- 10.報告事項・今後の主な行事等

報告2

「第2回理事会」について

令和7年12月11日(木)に、コンパルホールにおいて第2回理事会が開催され次の議案について審議されいずれも承認されました。

- 1.令和7年度事業執行状況(10月末)
- 2.令和7年度収支予算執行状況について(10月末)
- 3.令和8年度役員改選について
- 4.代表理事及び業務執行理事の活動報告について
- 5.本会の財務改善、会員増強対応について
- 6.令和8年度事業計画及び収支予算書について(お知らせ)
- 7.その他について(協議・報告)

報告3

「おおいた建築セミナーinおおいた」について

令和7年12月13日(土)、14日(日)に「第10回おおいた建築セミナーin大分」が「50to50(ごじゅうとごじゅう)」をテーマに大分市のJ:COMホルトホール大分で開催されました。約100名の参加がありました。

幸会長の挨拶で始まり、嵯峨彰仁佐賀関支部青年部長の佐賀関地域大規模火災の報告、伊藤憲吾大分支部長の歓迎の挨拶の後、相馬尊重由布市長を講師に迎え、「20to50」と題する基調講演が始まりました。由布市の魅力や市町村合併から20年経った現在の課題の説明がありました。

引続き地域科学研究所の西田稔彦氏をコーディネーターに、相馬市長、石井副会長、大分支部長が加わり、由布市の今後と建築士の領域拡大の可能性のトークディスカッションが行われました。

また、分科会は、

A：じだいtoトーク、

B：みなとtoホーバー、

C：めぐるtoビール、

D：まちtoフードの4コースに分かれて行われ、人口減少に伴う廃校活用や青年部活動の今昔のトーク、ホーバー基地となった西大分港や飲食しながらの楽しいまち歩きをしました。

さらに親睦会は、18時から「ゆかい」ではじまりました。美味しい料理に各支部から差し入れの「酒・肴」も加わり長さ当て、重さ当て、スケッチのアトラクションでさらに盛り上がりました。

楽しく親交を深め、世代間交流が和やかに進み、次期開催地の県南ブロックの発声で再会を期し乾杯し、集合写真を撮って21時頃に終了しました。大分支部の皆さん大変お世話になりました。ありがとうございました。

翌日の12月14日（日）には、佐賀関を知るエクスカッションが佐賀関支部の協力で開催されました。灯台や神社仏閣などの佐賀関地区の独特の風土に触れ、世代を繋げて大きな学びがあったと思います。佐賀関支部の皆さん大変お世話になりました。ありがとうございました。

報告4

「建築甲子園」の審査結果について

「建築甲子園」は、工業高校、高等学校、工業高専（3年生まで）を対象とした（公社）日本建築士会連合会主催の全国設計競技です。今年度の課題は「地域のくらしーまちに住む・地域に開く戸建てのすまい」です。

令和7年10月18日(土)にコンパルホールで大分県大会選考会が開催され、応募のあった2校、3作品の中から、大分工業高校の3年生の麻生一希さん、二方絢華さん共同作品の「粋な和空間、広がる量と縁側のすまい～縁側から広がる地域との新しい関係～」が最優秀賞に選ばれ、全国大会へ進みました。応募のあった都道府県選出の40作品の中から、審査が行われ、ベスト12作品が選考されましたが、残念ながら入賞出来ませんでした。

2月26日（木）午後に幸会長、松崎局長が大分工業高校を訪問し、校長室において監督（担当教員）が同席の下に奨励賞の伝達式が行われ、表彰状と賞金、副賞が手渡されました。おめでとうございます!!

報告5

「佐賀関地域大規模火災義援金」の募金箱の設置について

昨年11月18日（火）に発生した佐賀関地域大規模火災に対して、大分県建築士会も「佐賀関地域大規模火災」の募金箱を事務局に設置し支援しています。ご協力いただいた救援金は、大分市（福祉保健課）を通じて日本赤十字社へ送られ、被災地県に配分されます。

令和7年11月設置より令和7年1月までの累計で62,013円の救援金が集まりました。ご協力ありがとうございました。引き続きお心尽くしのご協力をお願いします。

なお、10月まで設置いたしました「能登半島地震災害義援金」の募金額は、累計63,339円でした。皆様からの心温まる義援金のご協力に心から感謝申し上げます。

■会務行事案内

- 3月18日(水) 令和7年度第3回理事会
- 5月20日(水) 令和8年度第1回理事会
- 6月11日(木) 総会・第2回理事会・永年会員表彰式・懇親会
- 6月20日(土) 九州ブロック「建築士の集い」熊本大会
- 7月1日(水) 建築士の日記念事業
- 10月16日(金) 全国大会「群馬大会」

情報広報委員

担当執行役員 委員 長 副委員 長 委員

〈豊後大野〉	高野幸雄
〈宇佐〉	西胤和弘
〈日田〉	野村晋二
〈高田〉	後藤憲二
〈別府〉	山本健太郎
〈大分〉	今永和浩
〈大分〉	後藤悟郎
〈大分〉	藤原次郎
〈大分〉	衛藤祐介
〈大分〉	甲斐啓大
〈大分〉	若松加奈子
〈大分〉	佐保望
〈臼杵〉	佐藤賢市
〈佐伯〉	後藤堅一
〈玖珠〉	瀧石雅一
〈日田〉	久恒玄季
〈中津〉	日高雄介

編集部員

部会長 部員

〈中津〉	日高雄介
〈高田〉	後藤山憲
〈別府〉	小江秀志
〈大分〉	江崎平
〈大分〉	粉航
〈佐賀関〉	上田亮
〈臼杵〉	松井健児
〈津久見〉	竹田光徳
〈佐伯〉	長田孝治
〈佐伯〉	福井大輔
〈豊後大野〉	工藤健治
〈竹田〉	田島薫一
〈竹田〉	江上禎一
〈玖珠〉	瀧石雅一
〈日田〉	熊谷高真
〈宇佐〉	森崎真

建築士おおいた

2026. 3 No. 136

(非売品)

令和8年3月23日 印刷

令和8年3月24日 発行

編集／発行所

公益社団法人

大分県建築士会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 AIG大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所／いづみ印刷株式会社

大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0617	豊後高田市高田 2145 番地 1 (株)中村建材店内	0978-22-2307
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0919	別府市石垣東 1 丁目 9 番 31 号 (株)幸建設内	0977-23-6231
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 AIG 大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4 (株)セキ土建内	097-575-1120
臼杵	875-0063	臼杵市大字望月 1029-11 藤澤建築設計内	0972-63-7589
津久見	879-2682	津久見市大字網代 5798-2	0972-84-9622
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-22-5008
豊後大野	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 1922-1 2F 高野建設一級建築士事務所内	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0026	日田市田島本町 4-1 野村一級建築設計事務所内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-30-9110
宇佐	879-0444	宇佐市大字石田 13 番地の 11 (株)さとう不動産設計事務所内	0978-25-6766
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～



公益社団法人 大分県建築士会

2026 NO 136